

平成23年8月16日

山武市長 椎名千収 様

地方独立行政法人さんむ医療センター評価委員会
委員長 村上 信乃

地方独立行政法人さんむ医療センター平成22事業年度の業務実績
に関する評価結果について（報告）

地方独立行政法人さんむ医療センター平成22事業年度の業務実績に対する
地方独立行政法人さんむ医療センター評価委員会の評価結果について、地方独
立行政法人法第28条第4項の規定に基づき別紙のとおり報告します。

地方独立行政法人さんむ医療センター
平成22事業年度の業務実績に関する評価結果

平成23年8月

地方独立行政法人さんむ医療センター評価委員会

年度評価の考え方

地方独立行政法人さんむ医療センター評価委員会では、平成22年4月1日に設立された地方独立行政法人さんむ医療センターについて、法人化して初めての平成22事業年度の業務実績に関する評価を行った。

〈評価の基本方針〉

- (1) 中期目標・中期計画の達成状況等からさんむ医療センターの業務運営等に関して多面的な観点から総合的に評価を行い、さんむ医療センター運営の質的向上に資するものとする。
- (2) 評価を通して、中期目標・中期計画の達成状況や取り組み状況を市民に分かりやすく示すものとする。
- (3) 業務運営の改善や効率化等の特色ある取り組みや様々な工夫を積極的に評価するものとする。
- (4) さんむ医療センターを取り巻く環境の変化等を踏まえ、必要に応じて評価の方法を見直すものとする。

〈年度評価の方法〉

当該年度計画に定めた事項ごとに行う「項目別評価」と業務実績全体の進捗状況について行う「全体評価」の2つを併せて行った。

(1) 項目別評価の方法

項目別評価は、①評価委員会による小項目評価、②評価委員会による大項目評価の手順で行った。

① 小項目評価

評価委員会において、法人の自己評価及び目標設定の妥当性などを総合的に検証し、年度計画の小項目ごとの進捗状況について評価を行った。

評価委員会による評価と法人の自己評価が異なる場合には、評価委員会が評価の判断理由等を示した。また、必要に応じて特記すべき点などについてコメントを付した。

② 大項目評価

評価委員会において、小項目評価の結果、特記事項の記載内容等を考慮し、大項目ごとの進捗状況について評価を行った。

(2) 全体評価の方法

- ① 評価委員会において、項目別評価の結果を踏まえ、年度計画及び中期計画の全体的な進捗状況について、記述式による評価を行った。
- ② 全体評価においては、地方独立行政法人化を契機とした病院改革の取り組み(さんむ医療センター運営における自律性・機動性の発揮、財務内容の改善、病院運営の透明性の向上など)を積極的に評価した。

地方独立行政法人さんむ医療センター平成22事業年度の業務実績に関する評価結果

第1 全体評価

1 評価結果

地方独立行政法人さんむ医療センターは、従前の組合立病院一部事務組合を解散して設立するものとしては全国初の地方独立行政法人として、平成22年4月1日に設立された。平成22事業年度の業務実績については、3つの大項目評価「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」、「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「その他業務運営に関する重要事項」が全てB評価であったこと、更には特に以下の点を評価し、全体評価としては中期目標及び中期計画の達成に向け、概ね計画どおりに進んでいると評価する。

2 全体評価にあたって考慮した事項

- (1) 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」の大項目においては、CTを更新したこと、PACS(画像保存通信システム)の導入やこれに伴うフィルムレス環境の整備により検査の所要時間を短縮するなど患者サービスが向上したこと、山武市の乳児検診を小児科外来と連携し院内で実施したこと、ホームページを立ち上げ必要に応じて改善するなど医療情報等の提供に努めたことなどが上げられる。一方、常勤医及び看護師の人数が目標値に達しなかったこと、認定看護師が減員したこと、患者サービスの一層向上の点において課題があることなどから、B評価(中期目標・中期計画の達成に向けて概ね計画どおりに進んでいる)とした。
- (2) 「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」においては、経営の質向上委員会及び病院の質向上委員会の立上げ、再雇用制度の活用、院内での病児保育を開始したこと、高度医療機器(CT・MRI)の稼働率の向上に努めたことなどが上げられる。一方、人事評価制度の構築、勤務成績を考慮した給与制度の導入、回復期リハビリテーション病床開設及び後発医薬品の使用などが遅延していること、また、人件費比率が依然高いことなどから、C評価(中期目標・中期計画の達成に向けてやや遅れている)とした。
- (3) 特筆すべき取り組み
 - ① 山武郡市医師会と連携した休日当番体制及び二次救急医療輪番体制の実施に努力したこと。
 - ② 地域医療機関との連携を密にし、紹介患者受入率が目標数値を上回ったこと。
 - ③ 努力目標であった産科医療の開始について、平成23年4月からの婦人科の開

始及び7月からの産科(分娩)開始の運びとなったこと。

3 評価にあたっての意見、指摘等

- ア 地方独立行政法人に移行し、職員が一体となって意識改革に取り組み、成果を上げていると見受けられる。
- イ 引き続き地方独立行政法人のメリットを十分活かし、創意工夫及び経営改善に努めて頂きたい。
- ウ 医師・看護師の確保に積極的に取り組み、成果を上げて頂きたい。
- エ 速やかに人事評価制度を構築し、勤務成績を考慮した給与制度の導入を円滑に進めて頂きたい。特に、平成24年度における人件費比率の改善に向けた改革に早急に取り組む必要がある。

第2 大項目評価

1 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」に関する大項目評価

(1) 評価結果

B評価(中期目標・中期計画の達成に向けて概ね計画どおりに進んでいる)

(2) 判断理由

小項目の集計結果(《第2表 小項目評価の集計結果》参照)では、B評価となるが、下記の【大項目評価に当たり考慮した事項】で示しているように、住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置の中で、救急医療の充実、医療水準の向上、患者サービスの一層の向上、安心して信頼できる良質な医療の提供などの成果を踏まえて総合的に評価し、B評価が妥当であると判断した。

《 第1表 大項目の評価方法 》

大項目評価は、小項目評価の結果、特記事項等の内容を考慮し、大項目ごとに中期目標・中期計画の達成に向けた進捗状況について、次の4段階により評価する。

A：中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおりに進んでいる

B：中期目標・中期計画の達成に向けて概ね計画どおりに進んでいる

C：中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている

D：中期目標・中期計画の達成のためには改善事項あり

【大項目評価に当たり考慮した事項】

- ① 小項目評価がA(年度計画以上に実施している)の評価の項目は、次の9件であった。
- ア 医療機器等の計画的な整備及び更新〔項目番号:第 2-1-(2)〕
平成 22 年 8 月にCTを更新し、9 月にPACS(画像保存通信システム)を導入した。これにより、検査の所要時間を短縮するなど患者サービスが向上したと共に、フィルム材料費などのコストが削減され、フィルムレスによる診療報酬の加算も取得できた。
- イ 地域医療連携の推進〔項目番号:第 2-2-(3)-ア〕
紹介患者率が 31.8%であり、目標を 4.8%上回った。
- ウ 検査機器の効率的な稼動を行う〔項目番号:第 2-3-(1)-ウ〕
CTの利用件数は、年間 8,142 件で前年度より 1,210 件の増、また、MRIの利用件数は、年間 4,958 件で前年度より 112 件の増であった。
- エ 医薬品の安全管理徹底のため、手順書の確認や職員研修を実施して管理の徹底を図った。〔項目番号:第 2-4-(1)-イ〕
医薬品の安全使用のための業務手順書を定期的に見直し、職員研修を実施している。
- オ 薬剤師による入院患者の服用の管理指導を積極的に実施し、様々な入院患者の要望に応える分かりやすい内容で指導した。〔項目番号:第 2-4-(1)-ウ〕
施設基準届出のとおり、入院患者の状況に応じ、適切な内容で実施している。
- カ 予防接種や乳幼児健診を積極的に行う〔項目番号:第 2-5-(1)-ア〕
乳児検診を小児科外来と連携し院内で実施した。また、BCG接種希望者には、乳児検診時に実施している。
- キ 居宅介護事業の充実を図る〔項目番号:第 2-5-(1)-イ〕
平成 22 年 6 月からケアマネージャーを 1 名増員し、年間延べ利用者数は 570 人であった。また、看護資格を持つケアマネージャーによる医療依存度の高い利用者やターミナル利用者に対して充実した支援体制で実施している。
- ク 住民への保健医療情報の提供及び発信〔項目番号:第 2-5-(2)〕
ホームページを立上げ、必要に応じて改善し、分かりやすくかつ迅速に情報発信する体制を実施している。院内広報紙を発行し、各診療科に関する専門知識や外来診療表、休診情報などの記事を掲載したほか、各フロアや近隣市町の窓口に配布し周知を図った。また、近隣市町が発行する広報誌に診療体制に関する情報を掲載した。市民を対象とする「がん予防に関する公開講座」へ講師派遣を実施した。
- ケ 住民との連携〔項目番号:第 2-5-(4)〕
山武郡内のボランティア団体と連携し、院内の案内、ミニコンサート、病院敷地内清掃、花壇管理、ピアノ演奏活動等を実施している。

《 第2表 小項目評価の集計結果 》

評価対象項目数39項目に対し、A:年度計画以上に実施しているが9項目及びB:年度計画をほぼ順調に実施しているが21項目であり、割合は30/40と7割以上を占めることから、小項目評価の集計では、B評価(中期目標・中期計画の達成に向けて概ね計画どおりに進んでいる)と評価した。

分野	評価対象項目数	A:年度計画以上に実施している	B:年度計画をほぼ順調に実施している	C:年度計画を十分に実施できていない	D:年度計画を大幅に下回っている
1 地域の特性に配慮した医療の確立と提供	3	1	1	1	
2 医療水準の向上	15	1	10	3	1
3 患者サービスの一層の向上	11	1	6	3	1
4 安心して信頼できる良質な医療の提供	5	2	2	1	
5 市の医療施策推進における役割	6	4	2		
合計	40	9	21	8	2

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

ア 医師確保について、更なる努力を要望する。

イ 認定看護師は、中期計画では5名が目標であるが年度中に辞めて減員となっている。地方独立行政法人化によるメリットを活用し、質の向上とスキルアップを図れるよう計画的に認定看護師の育成に努めてもらいたい。

ウ 以前に比べ病院内の雰囲気は良くなった。

エ 平成23年度から産婦人科が開始されたことは、地域にとっても望ましいことである。

オ 地域住民の病院に対する要望・期待を十分把握し、その要望・期待を病院としてどのように活かしていけば良いのかを考え、地域と協力した病院運営の方向は、将来を見据えて考えて頂きたい。

2 「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」に関する大項目評価

(1) 評価結果

B評価(中期目標・中期計画の達成に向けて概ね計画どおりに進んでいる)

(2) 判断理由

小項目の集計結果(《第3表 小項目評価の集計結果》参照)では、B評価となるが、下記の【大項目評価に当たり考慮した事項】で示しているように、業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置の中で、地方独立行政法人としての運営管理体制の確立、効率的かつ弾力的な業務運営などの成果を踏まえて総合的に評価し、B評価が妥当であると判断した。

【大項目評価に当たり考慮した事項】

① 小項目評価がA(年度計画以上に実施している)の評価の項目は、次の2件であった。

ア 再雇用制度の活用の検討を図る[項目番号:第3-2-(5)-エ]

退職者3名を雇用し、実施している。

イ 高度医療機器の稼働率の向上を図る[項目番号:第3-2-(8)-イ-(ア)]

経営の質向上委員会にて、月毎の実績報告並びに件数向上の施策等を検討し実施している。平成22年度のCTの利用件数は、年間8,142件で前年度より1,210件の増、また、MRIの利用件数は、年間4,958件で前年度より112件の増であった。

《 第3表 小項目評価の集計結果 》

評価対象項目数21項目に対し、A:年度計画以上に実施しているが2項目及びB:年度計画をほぼ順調に実施しているが9項目であり、割合は11/21と5割以上を占めることから、小項目評価の集計では、B評価(中期目標・中期計画の達成に向けて概ね計画どおりに進んでいる)と評価した。

分野	評価対象項目数	A:年度計画以上に実施している	B:年度計画をほぼ順調に実施している	C:年度計画を十分に実施できていない	D:年度計画を大幅に下回っている
1 地方独立行政法人としての運営管理体制の確立	1			1	
2 効率的かつ効果的な業務運営	20	2	9	8	1
合計	21	2	9	9	1

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

- ア 人件費比率を下げるため、給与体系の抜本的な見直しが必要である。最終目標は平成 25 年度までに 50% 台ということであっても、どのようなプロセスで進めていくかが見えていない。いきなり人件費比率を 50% 台にすることは出来ないので、人件費比率を下げるため、危機感を持って取り組んでほしい。
- イ 人件費比率を下げるため、総合的に収益を上げることを目標に、平成 25 年度までの改革に期待する。
- ウ 病床利用率を上げることは、収益を上げるために必須である。病床利用率を上げるための行動プランを経営改善のためしっかり客観的に見える形で進めてほしい。
- エ 理事会の会議録公表において、議事に対しどのように議論されたかが分かる議事録の形でないので、議論した内容が分からない。今回の自己評価にあたっては、評価項目に対しどのような議論がなされたのかなど、理事会で議論した内容が分かる会議録の公表を要望する。
- オ 経営効率の向上を図るため、DPC (診断群分類包括評価を用いた入院医療費の定額支払い制度) の導入をふまえて診療点数の向上に努めてもらいたい。
- カ 後発医薬品 (ジェネリック) の導入率が低いので、DPC の導入、薬品、診療材料等の他の医療機関との共同購入を検討し、費用の節減に努めてもらいたい。

3 「その他業務運営に関する重要事項」に関する大項目評価

(1) 評価結果

B評価(中期目標・中期計画の達成に向けて概ね計画どおりに進んでいる)

(2) 判断理由

小項目の集計結果(《第4表 小項目評価の集計結果》参照)では、B評価となる。下記の【大項目評価に当たり考慮した事項】で示しているように、その他業務運営に関する重要事項の中で、施設整備の推進、地域医療再生交付金の活用などの成果を踏まえて総合的に評価し、B評価が妥当であると判断した。

【大項目評価に当たり考慮した事項】

① 小項目評価がA(年度計画以上に実施している)の評価の項目はありませんでした。

《 第4表 小項目評価の集計結果 》

評価対象項目数2項目に対し、B:年度計画をほぼ順調に実施しているが2項目であり、割合は2/2と全てを占めることから、小項目評価の集計では、B評価(中期目標・中期計画の達成に向けて概ね計画どおりに進んでいる)と評価した。

分野	評価対象項目数	A:年度計画以上に実施している	B:年度計画をほぼ順調に実施している	C:年度計画を十分に実施できていない	D:年度計画を大幅に下回っている
1 施設整備の推進	1		1		
2 地域医療再生交付金の活用	1		1		
合計	2		2		

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

ア 回復期リハビリテーション病床の開設(40床)への取り組みについて評価する。ただし、回復期リハビリテーション病床の開設にあたっては、空き病床の有効利用、医師及び看護師等の確保、費用及び収益の見込みを的確に把握した上で実施する必要がある。